

麻酔科

(スタッフ)

部長 : 宇野 太啓
 副部長 : 油布 克巳
 : 木田 景子
 : 西田 太一
 : 甲斐 真也 (3月まで)
 主任医師 : 橋口 裕次朗 (3月まで)
 : 池邊 朱音 (4月から)
 嘱託医 : 深野 菜摘 (4月から)

(診療実績)

麻酔科管理症例数は2,684件で、前年2,772件より88件の減少となりました(図)。これは全麻枠の逼迫により精神科の全麻下電気痙攣療法が行われなくなったためです。

麻酔科管理症例の内訳は、全身麻酔2,649例、全麻下電気痙攣療法31例、脊硬麻1例、脊麻3例でした。麻酔法の内訳は表1のとおりです。麻酔科管理症例のうち予定手術(締め切り後も含む)は2,364例、緊急手術は320例でした。緊急手術の全麻酔科管理症例に占める割合は前年(12.8%)より減少して11.9%となっております。

特殊手術については、心・血管手術が51例(前年65例)、新生児手術20例(同25例)、食道がん手術12例(同11例)、脳外科手術54例(同58例)、脊椎手術49例(同48例)、胸腔・縦隔手術158例(同135例)でした。人工心肺を用いたものは27例(前年31例)、分離肺換気を行ったものは153例(同141例)でした。2022年4月からは精神科の電気痙攣療法が行われなくなり、2022年は延べ31例(同144例)でした。表2に麻酔科管理症例の重症度別内訳を示します。ASA-PS 3以上の重症例は17.3%であり、前年より少なくなっています。

ICU管理に関してはICU部の年報(P.76)で示します。

ペインクリニックに関しては、外来診療は行っていませんが、院内での疼痛管理の相談には応じています。

(今後の方向性)

2022年は4月より麻酔科専門医4人、標榜医2人体制になりましたが、当直明けの半日休はまだ可能です。2022年4月からは、週2回火・金曜日に大病院から麻酔の応援を受けることになりました。

重篤な合併症のある患者でも、注意深い麻酔管理とICUでの絶妙な術後管理で無事手術を完遂させて、患者に信頼される病院になるよう貢献します。

外科系の各科が予定手術はもちろん、緊急手術もストレスなく行えるような環境を整えます。

救急救命士の挿管実習病院として大分の救急のレベルアップに貢献します。

多くの研修医に麻酔科の仕事に興味をもってもらい、専門研修に麻酔科が選ばれるように努力します。

(文責：宇野太啓)

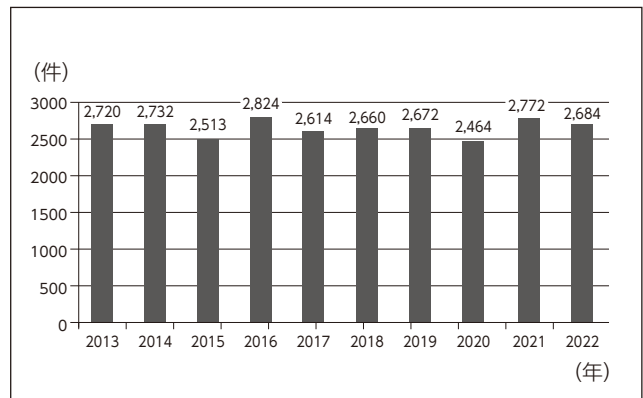


図 麻酔科管理件数の推移

表1 麻酔法内訳 (単位：件)

麻酔法	2021年	2022年
全身麻酔(吸入)	1,782	1,797
全身麻酔(TIVA)	172	120
全身麻酔(吸入)+硬・脊、伝麻	555	589
全身麻酔(TIVA)+硬・脊、伝麻	113	143
脊椎・硬膜外併用麻酔(CSEA)	1	1
硬膜外麻酔	1	0
脊椎麻酔	2	3
その他(電気痙攣療法の鎮静など)	146	31
計	2,772	2,684

表2 重症度別麻酔科管理症例 (単位：件)

ASA-PS	1	2	3	4	5	6
予定	494	1,510	359	1	0	0
緊急	61	154	96	6	3	0
計	555	1,664	455	7	3	0